

令和3年度 自己評価表

中長期目標 (学校ビジョン)	技術を研ぎ、身体を鍛え、心を磨くことをとおして、優れた知性や創造性を身に付けたたくましい力と、感動したり他者を思いやるあたたかな心を兼ね備えた、健全で個性豊かな人材の育成をめざす。	今年度の重点目標	1. 学力の向上 2. 豊かな人間性の育成 3. キャリア教育の充実と進路実現 4. 学校業務改善への取り組み
-------------------	--	----------	--

年 度 当 初				各分掌の具体的な取組 (最終評価)				
評価項目	評価の具体項目	現状	目標 (年度末の目指す姿)	目標達成のための方策	経過・達成状況	評価	改善方策	
1	①	授業改革と学力の向上	<b>【授業改革】</b> ◇学力向上研修を予定どおり実施。研修を活かしている職員の割合は43%に上昇 ◇オンライン授業の導入に向けてICT活用研修を3回実施。講演会や式典等の学校行事を教室で観る技術が確立 ◇校内Web上にアクティブラーナーの情報を提供、オンライン研修に延べ7名参加 ◇一人一授業公開はコロナ禍での展開が難しく、実施率は53%に下降(1月末) ◇対話的な学習活動に制限はあったが、ICTを活用した授業実践が徐々に浸透 ◇評価アンケートによる生徒の授業満足度が改善 R2:76.8% (R1:70.4%) ◇教員自主研修として「授業見学週間」を新設。また、鳥工版STEAM (教科横断型学習) の実施に向けて「単元・題材配列表」を作成 <b>【学力の向上】</b> ◇基礎学力不足の生徒に対する指導を、1学期に各々が4回程度実施 ◇数学基礎演習を、工業各科・数学科が実施 ◇2年生で進学補習及び、成績不振者の「考前自主学習会」を実施 <b>【学習環境の整備】</b> ◇毎週初めを「5S・あさひの日」とし、整備された室内環境を維持 ◇GIGAスクール構想に伴い、教室棟・共通実習棟のWi-fi環境を強化 ◇プロジェクトの更新による視認性向上と、教材提示法の拡充	<b>【授業改革】</b> ◇学力向上研修を生かしている教職員の割合が、昨年度よりも増加する (R2:43%、R1:38%) ◇一人一授業公開の実施率が前年度を上回る (R2:53%) ◇生徒の授業満足度が前年度を上回る (R2:76.8%) ◇鳥工版STEAM教育を試行する ◇新学習指導要領に合わせて年間授業計画を見直す ◇アクティブラーナーの利用推進を図る <b>【学力の向上】</b> ◇入学時よりも生徒の数学力が向上している ◇特別講習を受けた生徒が、先端技術を習得することにより学力を向上させている ◇興味をもって授業に臨み、一人一人の知的総合力が高まっている <b>【学習環境の整備】</b> ◇生徒が自発的に「整理・整頓・清掃」を実践し、学習環境を整えている	<b>【授業改革】</b> ◇教職員にとって有意義な学力向上研修会を企画する ◇教職員に一人一授業公開を促す ◇他の教職員の授業を見学できる期間を設定し、見学で発見したことを授業に取り入れるよう促す ◇教務掲示板とスケジュールで各種研修を案内する ◇他校のSTEAM教育実践事例を参考にして、鳥工版STEAM教育の実践方法をまとめる ◇スケジュールやメールでアクティブラーナーの利用を呼びかける <b>【学力の向上】</b> ◇数学基礎補習を各科で実施する ◇特別講習を各科に依頼する ◇知の世界の豊かさや深さ、面白さに触れる学習のあり方についての研究を継続的にを行い、全体で共有する <b>【学習環境の整備】</b> ◇「5S・あさひ」の励行により、教室整備と授業規律の確立を目指すとともに、3Sに重点的に取り組む時間を年5回設定する	<b>【授業改革】</b> ◇STEAM教育研修会を2回企画・実施し(7月・12月)、研修の成果を授業に生かし始めた ◇鳥工版STEAM教育のスタイルを確立し、授業実践事例とともにHPで紹介した ◇臨時休業や分散登校・分散授業の影響により一人一授業公開がしにくい状況であった(1月末現在の実施率36%) ◇他の教職員の授業を見学できる期間を設定し、見学で発見したことを授業に取り入れるよう促した ◇評価アンケートによる生徒の授業満足度が3年間で上昇した R3:82.5% (R2:76.8%、R1:70.4%) ◇教務掲示板とスケジュールで各種研修等を案内した ◇スケジュールやメールでアクティブラーナーの利用を呼びかけた <b>【学力の向上】</b> ◇数学基礎補習を各科で実施した ◇特別講習を各科に依頼した ◇知の世界の豊かさや深さ、面白さに触れる学習のあり方についての研究を継続的にを行い、全体で共有した <b>【学習環境の整備】</b> ◇「5S・あさひ」の励行により、教室整備と授業規律の確立を目指した ◇5S活動のさらなる普及をねらいとして、5S LHRを企画・実施した	B	<b>【授業改革】</b> ◇有意義な学力向上研修会を企画、実施する ◇一人一授業公開を計画的に行うよう促す ◇授業見学週間を年2回に増やす ◇研修成果を共有する ◇鳥工版STEAM教育を発展させる <b>【学力の向上】</b> ◇主体的な学習態度の育成手段を検討する ◇進路指導部との業務連携を検討する ◇STEAM教育など、生徒一人一人の知的総合力を高める授業実践に取り組む <b>【学習環境の整備】</b> ◇月曜日の「5S あさひの日」を継続する
	②	主体的な学習態度と実践力の育成	<b>【生徒の学習状況と学習意欲の喚起】</b> ◇自宅学習時間は昨年度に比べて減少 R2第2回:80分/日 (R1第2回:93分/日) ◇予鈴を設定し授業開始までの準備・着席が良好 ◇授業ルールの明文化や実習前の活動内容確認で主体的な学習ができた	<b>【生徒の学習状況と学習意欲の喚起】</b> ◇自宅学習に意欲的に取り組む(目標とする学習時間:工業学科90分) ◇規律ある授業展開、場に応じた速やかな動作・集団行動ができる ◇基礎学力を身につけ、進路を意識し、主体的に学習に取り組むことができる ◇ICTを活用し実践力を身に付けている	<b>【生徒の学習状況と学習意欲の喚起】</b> ◇自宅学習時間増加に向けた取り組みを各教科で検討し取り組む ◇授業規律を具体的に周知するとともに各行事や学年集会等で集団行動の動きを身につける ◇基礎力診断テストを通じて学力を把握しD3の生徒の補習を行うとともに、進路意識の高揚をはかる ◇ICTを活用した授業展開や課題を検討する	<b>【生徒の学習状況と学習意欲の喚起】</b> ◇自宅学習時間増加に向けて各教科で取り組み、自宅学習時間が増加した R3第2回:100分/日 (R2第2回:80分/日) ◇授業規律を具体的に周知するとともに、各行事や学年集会等で集団行動の必要性を認識させた ◇基礎力診断テストを通じて学力を把握し、生徒の状況に応じた補習を行うとともに、進路意識の高揚をはかった ◇ICTを活用した授業展開や課題を検討し、実践した	B	<b>【生徒の学習状況と学習意欲の喚起】</b> ◇自宅学習調査を有効活用する ◇授業における規律指導、学年による個別指導及び家庭訪問等を通じて、授業態度の改善を継続的に指導する ◇予鈴を意識させ、授業開始前の準備完了を継続的に指導する ◇調査後を中心に、成績不振者に対し状況確認や学習目標の喚起のための面談を実施する ◇基礎力診断テストの結果を生徒に効果的にフィードバックする ◇教室棟巡回業務を利用し、授業中の生徒の様子を観察する ◇タブレット等ICT機器を利用した授業の実践に取り組む

注) 5S:整理・整頓・清掃・清潔・躰 あさひ:挨拶・作法・人の話を聴く STEAM教育:科学(S)、技術(T)、工学(E)、芸術・文学・歴史・経済など(A)、数学(M)を融合させた学び

評価基準 A:十分達成(100%) B:概ね達成(80%程度) C:変化の兆し(60%程度) D:まだ不十分(40%程度) E:目標・方策の見直し(30%以下)

令和3年度 自己評価表

中長期目標 (学校ビジョン)	技術を研ぎ、身体を鍛え、心を磨くことをとおして、優れた知性や創造性を身に付けたたくましい力と、感動したり他者を思いやるあたたかな心を兼ね備えた、健全で個性豊かな人材の育成をめざす。	今年度の重点目標	1. 学力の向上 2. 豊かな人間性の育成 3. キャリア教育の充実と進路実現 4. 学校業務改善への取り組み
-------------------	--	----------	--

年度当初			各分掌の具体的な取組 (最終評価)					
評価項目	評価の 具体項目	現状	目標 (年度末の目指す姿)	目標達成のための方策	経過・達成状況	評価	改善方策	
2	① 豊かな人間性の育成	互いを尊重する態度と社会性の涵養	【人権教育・性に関する指導】 ◇人権教育LHRの事前事後研修を行い情報交換をおこなった ◇生徒情報の把握に努め、各学年、他分掌、スクールカウンセラー、家庭等との連携を図った ◇性に関する指導講演会やLHRを通して、正しい異性観を持ち、性への自立共生を図った 【ハイパーQ U、いじめアンケート等の活用】 ◇hyper-Q U アンケートと職員研修会を実施した ◇いじめ等に関するアンケート (計3回) を実施し、問題の早期発見・対応に努めた 【指導力向上の職員研修】 ◇校外の人権教育関係の研修の中止・延期が相次ぎ、参加の呼びかけができなかった (一人一研修、3月末53%) ◇公開人権教育LHR後に研究協議を実施	【人権教育・性に関する指導】 ◇生徒の人権意識の高揚と、他者の人権や存在の尊重 ◇生徒の実態に合った支援方法により、特別支援を要する生徒の安心した学校生活の確立 【ハイパーQ U、いじめアンケート等の活用】 ◇自己理解と集団規律の順守 ◇いじめの無い学校生活 ◇学校が楽しいと思えるとともに、悩みが相談しやすい雰囲気等の確立 【指導力向上の職員研修】 ◇職員の自主的な研修として「一人一研修」の参加100% ◇研修成果を教科やLHR等に還元	【人権教育・性に関する指導】 ◇人権教育LHR・性に関する指導LHRの実施 ◇特別支援計画を早期策定し、その支援に特別支援教育支援員を活用する 【ハイパーQ U、いじめアンケート等の活用】 ◇1・2年生2回、3年1回のハイパーQUを実施し、その都度データの読み取りや活用についての職員研修を行う ◇いじめアンケート、生活振り返りアンケート (1年のみ)、生徒会伝言BOX、相談室等を通じて、生徒の抱える悩み等を把握する等関係分掌と情報を共有 ◇外部関係機関との連携 【指導力向上の職員研修】 ◇研修会や講演会の情報を発信し、オンラインも含めた研修会への参加を促進 ◇事前学習など人権教育LHRの指導案の協議	【人権教育・性に関する指導】 ◇人権教育LHRの事前事後研修を実施し情報交換を行った ◇生徒情報の把握に努め、各学年、他分掌、スクールカウンセラー等への連携を図った ◇家庭・地域・出身中学校、PTA人権教育部等と連携した ◇人権問題講演会を2年生に対して6月に実施した ◇性に関する指導講演会やLHRを通して、性への自立・共生、正しい異性観を育んだ ◇熱中症予防の啓発や感染症予防の換気の放送など委員会が活性化した 【ハイパーQ U、いじめアンケート等の活用】 ◇ハイパーQ U アンケートを実施し、生徒理解に活用した ◇いじめ等に関するアンケート (計3回) 及び1年生対象の生活振り返りアンケートを実施し、問題の早期発見対応に努めた 【指導力向上の職員研修】 ◇校内人権教育職員研修会を実施した ◇校外の人権教育関係の研修の中止・延期が相次ぎ、オンラインや書面開催での参加が多かった (1月末現在で14名、25%の参加) ◇公開人権教育LHRはコロナ感染急拡大のため中止。LHR後の研修は学年ごとに実施の予定	B	【人権教育・性に関する指導】 ◇各行事を計画的に実施する ◇人権教育LHR等の実践内容を整理し、分かりやすいものにする 【ハイパーQ U、いじめアンケート等の活用】 ◇各行事を計画的に実施する ◇今後も他分掌との連携を図り、生徒の実態に応じた活動を行う ◇いじめアンケートを安心して実施できるよう厳格に取り組む 【指導力向上の職員研修】 ◇各種研修の校内での実施及び校外研修への案内をする ◇1人1研修への参加の呼びかけ、個別の情報提供を行う
		健全な心身と社会貢献精神の育成	【基本的生活習慣の確立】 ◇「5S・あさひ」、あいさつ運動については、一定の効果をおいている ◇学年ノートの活用が曖昧になり、効果が半減した ◇臨時全校集会を2回開催するなど落ち着きのない状況であった 【ボランティア活動】 ◇多くのボランティアが中止となり参加人数が14名に減少した 【部活動、生徒会活動】 ◇部活動では多くの大会が中止となり、中国大会や全国大会に出場者数が11名であった ◇各委員会の活動が定着した 【環境改善】 ◇廃棄物2018年度比2%減、電力は2018年度比1%減という目標をあげているが、3月で廃棄物12.6%減・電力6.5%減だった 【安全教育】 ◇対象生徒を縮小したり、リモートでの視聴にするなどして、各種安全教室を実施することができた ◇自転車事故4件	【基本的生活習慣の確立】 ◇規範意識や社会で通用する行動や考え方を身に付けた生徒の増加 ◇頭髪検査の不合格者の減少、正しい制服の着こなしの定着 ◇授業規律順守を徹底 【ボランティア活動】 ◇ボランティア活動の参加者がR2年度比10%増加 【部活動、生徒会活動】 ◇各クラス役員の活動と生徒会活動の活発化 ◇部活動において、R3年度の中国大会出場者数の増加を目指す 【環境改善】 ◇環境LHR、環境講演会等による教職員、生徒への啓発 ◇2018年度比可燃ゴミ排出量2%減、電力は2018年度比1%減を引き続き目指す 【安全教育】 ◇交通ルールやマナー等社会生活に必要な正しい知識の習得	【基本的生活習慣の確立】 ◇日常的な頭髪・服装指導 ◇授業規律を明確化 ◇問題行動の早期発見・早期対応の取り組み実施 【ボランティア活動】 ◇ボランティア活動の場を広報し奨励 【部活動、生徒会活動】 ◇部活動における外部指導者の活用 【環境改善】 ◇毎月の達成状況を公開し、教職員、生徒への啓発を行う 【安全教育】 ◇全職員による朝の交通指導、教室棟巡回業務の継続 ◇各種安全教室の実施 (携帯マナー講習、自転車安全、非行防止・薬物乱用防止教室等)	【基本的生活習慣の確立】 ◇日常的な頭髪・服装指導を行った ◇頭髪検査の実施と継続的な事後指導を行った ◇問題行動の早期発見・早期対応に取り組んだ 【ボランティア活動】 ◇今年はボランティアが中止となる中で、鳥取砂丘の除草ボランティアに4名の生徒が参加した 【部活動、生徒会活動】 ◇部活動では、大会中止が多かったが、1月現在累計で中国大会に75名が出場した 【環境改善】 ◇廃棄物2018年度比2%減、電力は2018年度比1%減という目標を挙げており、12月で廃棄物46.9[%]減、電力1.6%減だった 【安全教育】 ◇全職員による朝の交通指導、教室棟巡回業務を実施した ◇各種安全教室を実施した (携帯マナー講習、自転車安全、非行防止・薬物乱用防止教室等)	B	【基本的生活習慣の確立】 ◇本年度立てた具体的方策を継続的に実施する ◇規定の意義をあらためて理解させ、規定遵守を徹底させる ◇問題行動に繋がりがねない事象について把握に努め未然に防ぐ 【ボランティア活動】 ◇今後も続けてボランティア活動の場を広報する 【部活動、生徒会活動】 ◇関係分掌・教科等と連携し、より多くの生徒が部活動や生徒会活動に参加できるように支援する 【環境改善】 ◇継続して、教職員、生徒への啓発を行う 【安全教育】 ◇全職員による朝の交通指導の継続、教室棟巡回業務を継続する ◇携帯マナー講習、交通安全教室、非行防止教室、薬物乱用防止教室を開催する ◇自転車通学におけるヘルメット着用を徹底する

注) 5S: 整理・整頓・清掃・清潔・躰 あさひ: 挨拶・作法・人の話を聴く ハイパーQ Uアンケート: よりよい学校生活と友達づくりのためのアンケート

評価基準 A: 十分達成(100%) B: 概ね達成(80%程度) C: 変化の兆し(60%程度) D: まだ不十分(40%程度) E: 目標・方策の見直し(30%以下)

令和3年度 自己評価表

中長期目標 (学校ビジョン)	技術を研ぎ、身体を鍛え、心を磨くことをとおして、優れた知性や創造性を身に付けたたくましい力と、感動したり他者を思いやるあたたかな心を兼ね備えた、健全で個性豊かな人材の育成をめざす。	今年度の重点目標	1. 学力の向上 2. 豊かな人間性の育成 3. キャリア教育の充実と進路実現 4. 学校業務改善への取り組み
-------------------	--	----------	--

年 度 当 初			各分掌の具体的な取組 (最終評価)					
評価項目	評価の 具体項目	現状	目標 (年度末の目指す姿)	目標達成のための方策	経過・達成状況	評価	改善方策	
3	キャリア教育の充実と進路実現	① 専門的な知識・技術の習得	【人材育成】 ◇新型コロナウイルスの影響によりいくつかの検定試験が中止となったが、受験した検定試験は合格率が上がりつつある ◇技術顕彰、ジュニアマイスター受賞者が前年度より増加した	【人材育成】 ◇年度未までに、一つ以上の資格・検定試験にチャレンジ ◇年度未までに、一つ以上の資格・検定試験に合格	【人材育成】 ◇資格、検定が進学に必要なプラスになることを認識させるとともに、各種大会への参加の啓発指導の継続 ◇生徒の資格取得状況の把握及び事前指導 ◇資格取得実績に伴う効果的な学習計画の立案と指導・支援の実施 ◇進路意識の高揚を図るため、インターンシップ、企業見学会の実施	【人材育成】 ◇デュアルシステムはM、E科で実施、企業見学は2、3年生にて実施し、専門知識の習得に努めた ◇インターンシップ(2年生)はコロナ禍のため実施できなかった ◇国家資格・検定取得ガイドブックを作成し、取得を奨励した 取得状況：電気工事士第1種(4/12)第2種(15/28)技能士(36/46)危険物乙4(5/21)測量士補(6/28)ガス溶接(22/22)漢字検定準2級(2/2)3級(4/6)実用英検準2級(1/1)3級(2/2)情報技術検定2級C(18/38)3級(29/51)計算技術検定3級(60/122)パソコン利用2級(14/26)機械製図(31/92)基礎製図検定(55/90)初級CAD(22/28)建築CAD(11/12)リスニング英語1級(4/4)2級(4/4)3級(2/2)2級建築施工管理(5/11)2級土木施工管理(10/16)甲種火薬類取扱(1/1)消防設備士乙6(1/1) ◇ジュニアマイスターを10名受賞し、ゴールド特別表彰を受賞した生徒がいた	B	【人材育成】 ◇実習や授業など機会を通して指導する ◇インターンシップ、企業見学会を実施する ◇取得の奨励、継続指導を行う
		② 勤労観・職業観の育成と進路指導の徹底	【職業意識の育成】 ◇例年と異なり計画通り実施できなかった進路行事等に対して代替案を含め丁寧に対応した ◇応募前職場見学は就職希望者全員が参加 【進路指導の徹底】 ◇「進路の手引き」「キャリア・パスポート」を用いた進路LHRを展開 ◇進路面接資料(就職編、進学編)を作成し面接指導に活用 ◇昼休憩に「企業・学校説明会」を計20回実施(前年度30回)参加延べ人数302名(前年度185名)と大幅増。そのうち26名が説明会参加企業・学校に進路決定 ◇基礎力診断テスト、各種外部模試の実施、各教科・担任へフィードバックし効果的な指導を実施 ◇1回目の就職試験合格率は目標値の90%を超え91%を達成 ◇工業学科のみとなり、進学状況が4大17名(国公立4名含)、短大1名、専門学校等28名だった	【職業意識の育成】 ◇各学年の進路行事などの取り組みをとおして、進路意識が向上し勤労観、職業観が育成されている 【進路指導の徹底】 ◇一回目の就職試験合格率90%以上となっている ◇適切な進路情報を提供し、全生徒の進路実現がなされている	【職業意識の育成】 ◇インターンシップ、各企業見学等の実施及び事前事後指導の徹底 ◇就職者希望者に対して、校内外の進路行事を通じて社会人基礎力を高める 【進路指導の徹底】 ◇とっとりふるさとキャリア教育の全体計画に基づき、「キャリア・パスポート」「進路の手引き」を活用し3年間を見通し、系統立てた進路指導、キャリア教育を実施 ◇校内の進路行事は、保護者にも案内し、生徒と共に進路の検討機会を提供 ◇基礎力診断テストを含め外部模試の結果を担任、教科へフィードバック、効果的な指導を実施	【職業意識の育成】 ◇2年 各行事中止に伴い、代替案として鳥取市雇用促進協議会と連携し出張企業説明会を実施した ◇3年 社会人として必要な心構え、マナー、様々な知識等について、進路行事を通して身につけるよう実施した 【進路指導の徹底】 ◇とっとりふるさとキャリア教育の全体計画に基づき、進路指導、キャリア教育を実施した ◇校内の進路行事については、保護者の参加を中止した対応となった ◇基礎力診断テスト、外部模試の結果を分析し、担任、教科で活用し、効果的な指導につながるよう対応した ◇企業・学校説明会を計23回実施した(前年度20回)参加延べ人数311名(前年度302名)そのうち15名が説明会参加企業・学校に進路決定 ◇1回目の就職試験合格率は、目標値の90%を超え96%を達成した ◇国公立大学に4名が合格した	A	【職業意識の育成】 ◇計画通り実施できなかった進路行事等についても代替案を含め丁寧に対応する ◇学年、各科と情報を共有し、校外の行政、団体、各事業所と連絡を密にとり各進路行事を適切に実施する 【進路指導の徹底】 ◇キャリア教育の全体計画に基づき、学年、分掌、各科と連携し進路指導、キャリア教育を実施する ◇進路行事、WEB説明会の案内、各進路資料の配布等、積極的な進路情報の提供をする ◇学年団と協力し、一般常識、SPI試験等への対応をする ◇各科・普通教科担当者で連携し、進学希望者への指導を充実する ◇就職、進学受験対策に向けて、WEB講義、動画配信サービスなどを有効活用する
		③ 地域や産業界との連携強化	【人材育成】 ◇上半期の企業見学、インターンシップなど各事業は概ね中止、下半期は企業見学など概ね予定通り実施 【情報発信】 ◇行事は少なかったが、実施したものについては案内、HPを更新、また学年によっては学年通信など随時発行 ◇出前授業の反応は良好、進路選択への影響を期待、中学校体験入学は説明見学のみ実施 【地域との連携】 ◇清掃活動、津ノ井地域懇談会は中止、マナーアップさわやか運動は9月分のみ実施 ◇テクノボランティアは7月のみ実施、12月は中止 【PTA活動の推進】 ◇各事業ごとにまちこみメールなどを通じて情報を発信(ただし中止、延期の連絡増加) ◇コロナ禍でもできる行事を精選して実施し、実施したものについては前年より参加者増	【人材育成】 ◇企業、地域産業から求められる能力を取得 ◇生徒自身が個性を活かせる進路の決定 【情報発信】 ◇「ものづくり」の体験を含めた地域や小・中学校等との交流と積極的な情報発信 【地域との連携】 ◇地域行事、地域と連携した貢献活動等への参加 【PTA活動の推進】 ◇保護者、地域を中心とした本校の教育活動への理解の深化 ◇保護者、地域の方々の本校の生徒指導方針に則った生徒の見守り ◇保護者などが参加しやすい事業の計画	【人材育成】 ◇実施可能な行事では継続指導を行い、生徒への意識を徹底 【情報発信】 ◇実施可能な行事ごとに保護者への参加を促すHPやまちこみメールを継続活用 ◇出前授業、テクノボランティアなどの継続実施、タイムリーな記事をHP等で情報発信 【地域との連携】 ◇参加可能な行事には積極的に参加し、地域と密接に交流 ◇テクノボランティアなどの継続実施による地域貢献活動への参加 【PTA活動の推進】 ◇コロナ禍の中でも実施できる行事を精選し、できるだけ多くの保護者が関わるようにできるように発信を密にしながら、PTA活動の内容を検討	【人材育成】 ◇企業や地域産業が求める能力を取得するよう、激励し、支援した 【情報発信】 ◇実施可能な行事ごとに、保護者への参加を促すHPやまちこみメールを継続活用した ◇文化祭や球技大会の動画配信を行った ◇出前授業により、中学生に専門高校の魅力を伝えた ◇学校行事の様子を、昨年度よりも盛んにHPで発信した 【地域との連携】 ◇参加可能な行事には積極的に参加し、地域と密接に交流した ◇地域貢献活動の一つとしてテクノボランティアを継続実施した 【PTA活動の推進】 ◇コロナ禍においても、できるだけ多くの保護者がPTA活動を通じて学校行事に関われるよう、様々な工夫を施した	B	【人材育成】 ◇企業や地域産業と連携しながら、地域を支える人材を育成する 【情報発信】 ◇実施される行事は積極的に参加を促す ◇文化祭や球技大会等の活動中の写真や資料等をHPで公開する 【地域との連携】 ◇状況を鑑みながら、地域との交流行事や地域貢献活動を計画し実施する 【PTA活動の推進】 ◇状況を鑑みながら活動する

注) デュアルシステム：学校の授業と並行して企業で学習するシステム テクノボランティア：学んだ専門技術を生かした地域へのボランティア活動

評価基準 A：十分達成〔100%〕 B：概ね達成〔80%程度〕 C：変化の兆し〔60%程度〕 D：まだ不十分〔40%程度〕 E：目標・方策の見直し〔30%以下〕

令和3年度 自己評価表

中長期目標 (学校ビジョン)	技術を研ぎ、身体を鍛え、心を磨くことをとおして、優れた知性や創造性を身に付けたたくましい力と、感動したり他者を思いやるあたたかな心を兼ね備えた、健全で個性豊かな人材の育成をめざす。	今年度の重点目標	1. 学力の向上 2. 豊かな人間性の育成 3. キャリア教育の充実と進路実現 4. 学校業務改善への取り組み
-------------------	--	----------	--

年 度 当 初				各分掌の具体的な取組（最終評価）				
評価項目	評価の 具体項目	現状	目標（年度末の目指す姿）	目標達成のための方策	経過・達成状況	評価	改善方策	
4	① 業務改善の取組	5SとQCストーリーの実践	◇定期的な執務室の清掃を実施 ◇共有フォルダを再構成し、業務の手順書の作成を依頼したが次年度用のフォルダの構成が未完成なこともあり、不十分な状況 ◇時間外勤務について、部顧問間で計画的に指導を分担したり、時間外業務時間の現状をフィードバックするなどにより、H29年度比51%の削減 ただし、時間外業務時間が年間360時間を超えた職員が2名、月45時間を超えた職員が延べ5名	◇5Sの実践に伴って業務場所や共有フォルダを整理・整頓し、見通しを立てながら業務を遂行 ◇QCストーリーに則した計画の見直しによる、業務内容の理解と実施時間の削減 ◇時間外業務について、月45時間、年間360時間を超える教職員の解消	◇定期的な執務室清掃の実施及び共有フォルダの使用ルールを設定 ◇要項・手順書を担当ごとに作成、また、業務終了後には、より良く引き継げるよう改訂してネットワークフォルダで共有 ◇部活動における休養日、活動時間を設定したうえで、顧問間で計画的に指導を分担 ◇行事、会議の精選についての検討 ◇時間外業務時間を管理職が適宜職員にフィードバック	◇執務室は年2回の一斉清掃の他、適宜整理、整頓、清掃を実施した ◇分掌・係ごとのファイル整理は進んだが、共有フォルダの使用ルール及び業務マニュアルは作成できなかった ◇部活動実施計画書により部顧問間での指導分担及び指導時間を可視化し、また、時間外業務時間については個別にフィードバックを進めた 時間外業務が月45時間を超える職員 昨年延べ5名 ⇒ 今年延べ11名 45時間を超えた職員は、4月は4名だったが、11月から0名が続いている ◇会議の進め方が意識され、会議時間は概ね30分から1時間未満に短縮した	C	◇執務室の一斉清掃日を引き続き設定する ◇業務を見直し・精選しながらマニュアルを作成し、スムーズな引継ぎにつなぐ ◇部活動実施計画書による時間外業務縮減の取組を継続する ◇時間外業務のフィードバックを継続するとともに、業務・校務の位置づけを確認する

注) 5S：整理・整頓・清掃・清潔・躰 QC（品質管理）ストーリー：問題解決の手順

評価基準 A：十分達成〔100%〕 B：概ね達成〔80%程度〕 C：変化の兆し〔60%程度〕 D：まだ不十分〔40%程度〕 E：目標・方策の見直し〔30%以下〕